

二〇二〇年度 田園調布学園大学

全学部全学科専攻 共通

国語 入学試験問題

全学統一入試

受験番号				

(注意)

- 一、解答は、すべて別紙の「解答用紙」に記入してください。
- 二、受験番号と氏名は、「問題用紙」と「解答用紙」の両方の所定の欄にかならず記入してください。
- 三、「問題用紙」と「解答用紙」は、試験終了後、かならず提出してください。
- 四、「問題用紙」に「下書き」「書き込み」などをしてもかまいません。
- 五、試験時間は六〇分です。

氏名

(一) 次の文章を読んで後の間に答えなさい。

日本文化で「子供」とは決していけない存在ではない。むしろ、子供のままでいることは純真な心を失わないすばらしいことと考えられる。子供と遊ぶ良寛さん^{注1}のような人物が聖人とされたりする。日本文化において、子供は未完成の大人ではなく、根源的な人間像としてとらえられるのだ。

また伝統文化も子供にaカンダイだ。歌舞伎や能の世界でも、3歳の子供が舞台に立つことは①往々にしてある。もちろん芸としてはまだまだ未完成で無秩序な状態だ。しかし歌舞伎や狂言の観客はそれを許し、楽しんでしまう。西洋文化の頂点・バレエなどでは子供が舞台に立つなど考えられない事態だ。

そのかわり歌舞伎では、3歳の子供も役者として厳しく対等に扱う。子供だからという言い訳はない。そこには歌舞伎の世界での師匠と弟子という差はあっても、大人と子供という差は存在しない。子供から大人へ、もつとナチュラルに捉えられているのだ。

子供はコスモスの世界を揺るがすカオスではない。同じく町外れの森も、決して「悪魔の領地」ではない。森も、子供も、それら全ては「あるがままの自然に近い状態」としてbコウテイ的に捉えられているのだ。

②こんな社会では「大人社会に対する反抗」という文化は生まれない。村と森の境目が曖昧なように、大人と子供の境目すら曖昧なのだから。

日本でも「貴族文化」というのはあった。しかしそれは応仁の乱あたりから京都という「実質上の遷都された後の僻地」に放置され、人々はそんなものとは無関係に高度消費文化を花開かせたのだ。

その日本型文化の源流がオタク文化の中には流れている。

だから日本の「子供向け文化」では、子供を一人の人間としてとらえ、一人前のものを与える。もちろん年齢によってできないこと、わからないことも多々ある。それでも最初からわからないと決めつけたりはしない。3歳の子供を舞台に立たせるように、大人の欲望や葛藤を躊躇なく入れる。

たとえば子供向けのアニメの中に、人間の心の闇や葛藤を描いたりする。アニメ版『アルプスの少女ハイジ』では、気難しいアルムお爺^{んじ}の孤独感が、原作よりもウェイトが置かれ描写される。

ロボットアニメの中に、未来戦争に苦悩するロボット乗りたちの心を描いたりする。資本主義社会の中で翻弄される人間像を『クレヨンしんちゃん』の中で描いたりする。もちろん、そんな難しいことがわからない幼い子供たちにも楽しいように形を整え、その上で本質的なテーマを入れるのだ。

見ている子供たちみんながわからなくてもいい。でも、12歳でも頭のいい子ならわかるかもしれない。18歳でもバカにはわからないだろう。できれば20代、30代の賢い大人をおおっといわせた。

オタク文化は、そういった世界でも類を見ない特殊な「子供文化」から派生・進化して出てきたものだ。そんな世界観で作られるオタク作品は、子供文化の形を借りた総合芸術なのだ。

ハリウッド映画が世界をc席巻した理由は、多民族国家アメリカのあらゆる民族、あらゆる階層の人々にわかるように、という枠があったからだ。そのために間口の広い、しかも興行きの深い作品が数多く作られた。日本のオタク文化も、子供向けで誰もが楽しいという間口の広さと、そこに深いテーマやドラマを入れるという興行きの深さで世界を席巻し始めている。

このように日本文化には二つの特徴がある。一つは江戸時代に成立した消費者文化。もう一つは「子供向け」の文化。

僕はオタク文化というのは「江戸時代の消費者文化」である職人文化の正統な後継者ではないかと考えている。つまりオタク的な楽しみとは、職人の芸を鑑賞するというスタンスの楽しみ方ではないだろうか。職人の匠の技を愛でたり、由来を確かめたり、粋を鑑賞したりする。その中で^{注2}「世界」と「趣向」という決まりにd則²った作品鑑賞、見立てという抽象化など、日本の古典文化と同じ方向へ進化していったのだ。

ではその「職人文化」というものを探ってみよう。

どんなにいいキセル^{注3}も、見方のわからない人にはただのキセルでしかない。せいぜい変わった柄とか、売値が高い、とかいうのがわかる程度だ。

こういう人はAと呼ばれて嫌われる。

これに対して、わかる人はこのキセルからいくつもの発見をする。たとえば「キセルの材質が錫と違って銀だ、これは色味はいいのだが細工にいいためeケイエン³されがちな材質じゃないか。なかなかの腕の技と見た！」とか「この模様はよく見たら千鳥じゃないか。なるほど、タバコの煙を洲浜に見立てて、その上で千鳥か」とかの作者側の暗号をわかってくれる客を「粋」と呼ぶ。作る方も粋な人ならわかってくれるだろう、と考えて作る、見る方もそれに応える。逆に作る側が手を抜けば見る側から厳しい批判が返ってくる。

以前説明した日本庭園も同じだ。この庭は、あの歌で詠まれた粟津晴嵐^{注4}の情景を作っているのだな、と見る側も心得ていなければ仕方がない。こういう③作り手と受け手のキャッチボールのような関係が日本文化の特徴だ。

日本文化では、粋を理解する客がいなければ文化は成立しえない。現在、古典落語が減びつつあるのも、Bためだといえる。

どんなに世界を守って趣向を凝らしても、そのとこをわかってもらえなければ仕方がない。どう趣向を凝らせばおもしろいかわからなくなってしまう。仕方なく、趣向なしでいつも同じ演出になっていく。そのため、ますますお客が減っていく、という悪循環が起きているのだ。

この送り手と受け手の関係は、オタク文化とまったく共通のものだ。『魔法陣グルグル』を見て「ふんふん、RPGのパロディアニメなのね、けっこうセンスいいなあ」とわかってあげるのとまったく同じ構造だ。

西洋のアートならクリエイターは神様だ。アーティストは、受け手の意見など聞かないし、聞く必要もない。逆に受け手の意見なんか聞いたりしたら、大衆に④おもねった偽物とされてしまう。

その点、日本文化の場合、作り手と受け手の間でCとして文化は進化する。では、作り手と受け手は対等なのかというそうではない。実は、「作品の良さを理解して言葉にできる」という「受け手」の方が日本文化では偉い、とされているのだ。

たとえば、茶道でも茶器の⑤目利きという仕事があった。実際に粘土をこねたり、窯に火を入れたりする職人よりも、彼らはずっと尊敬されていた。

千利休だって茶碗ひとつ焼けないただの人だが、彼がこれは、と認めればその茶碗は稀代の名器としてありがたがられた。千利休が偉かったから皆が鵜呑みにしたのではない。彼の語る言葉によって、その茶碗から確かに美が引き出せたからだ。

つまり、彼が茶碗の由来を語り、巧みな技をほめ、縁の欠けたさまに感動するしぐさを見て、

それまでは⑥ただのモノであった茶碗は芸術作品に昇格するのだ。

その構造が如実にわかる話として「はてなの茶碗」という落語がある。ただの薄汚い、おまけに水が漏れる茶碗を、茶屋金兵衛が「はてなの茶碗」と名付ける。どこからともなく漏れる水がおもしろい、趣があるというのだ。新しい評価を受けたその茶碗は、いきなりもてはやされ、九条関白、時の帝にまでお墨付きをいただいて、とうとう千両の値がついてしまう。

茶碗が変わったのではない。水が漏れることを価値としてみるという新しい視点が示されたのだ。その視点の変化のおもしろさが千両に値したということだ。

(岡田斗司夫『オタク学入門』より)

注1 江戸後期の僧・歌人。

注2 原文ではこの後に「第24章で説明した」という語句が入る。「世界と趣向」とは歌舞伎の作劇用語。

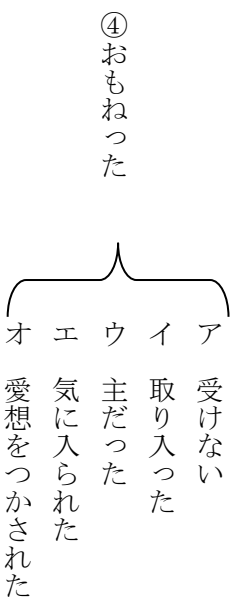
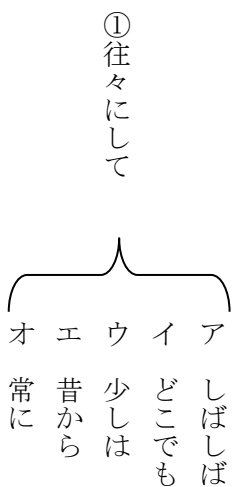
時代や登場人物・ストーリーの基本展開を「世界」、今の流行や意外な視点、新キャラクターなどを「趣向」とし、日本の伝統文化では決まった「世界」を様々な「趣向」で楽しむパターンが多いとす
る。

注3 煙管。きざみタバコを吸うための道具。

注4 粟津晴嵐 あわづのせいりん 近江八景のうちの一つ。晴れた日の粟津原(大津市)の松原の景色。

問一 二重傍線 a s e について、漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に改め、楷書で正確に書きなさい。

問二 傍線部①「往々にして」、④「おもねった」について、本文中の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。



問三 傍線部②「こんな社会では「大人社会に対する反抗」という文化は生まれない」とあるが、その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大人と子供という差が存在しない社会では、抑圧する大人と反抗する子供という図式が生まれないから
- イ 子供のままでいる純真な心を尊ぶ社会では、従順で素直な子供はいても大人に反抗するような子供は少数になるから
- ウ 村と森の境目が曖昧なカオスのような社会では、コスモスの世界を揺るがすような反抗的立場に立つことがないから
- エ 幼くして歌舞伎や能の舞台に立つことのある日本文化の中では、演じられる子供は大人と比べて未完成で無秩序な状態だから
- オ 子供が自然に近い状態で生きる社会では、子供と大人が仲良く遊んだり舞台に共に立つたりする対等な間柄だから

問四 空欄Aには、「粹」の反対語が入るが、それは何か。ひらがな二文字で書きなさい。

問五 傍線部③「作り手と受け手のキャッチボールのような関係」とあるが、日本文化の特徴として筆者が考える関係について、六十字以内で説明しなさい。

問六 空欄Bに入る最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 現代において粹と呼ばれる文化が廃れてしまった
- イ 現代落語しか受け入れられなくなってしまった
- ウ 落語の世界の約束事を理解する客が減ってしまった
- エ 古典を主題としたおもしろい演目がなくなってしまった
- オ 受け手の希望に沿った落語の作家がいなくなってしまった

問七 空欄Cに入る四字熟語として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 悪戦苦闘
- イ 百戦錬磨
- ウ 完全燃焼
- エ 切磋琢磨
- オ 不眠不休

問八 傍線部⑤「目利きという仕事」とあるが、どのような仕事か。本文に即して二十字以内で書きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問九 傍線部⑥「ただのモノであった茶碗は芸術作品に昇格する」とあるが、どのようにして「芸術作品」に昇格するのか、その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 職人以上に尊敬されている千利休が茶碗への感動を語ることで、ただのモノであった茶碗に多くの関心が寄せられ、価値が上がるから。
- イ 茶碗はそのままではただのモノだが、その由来や作り手の技や美しさを千利休が言葉にすることにより、新しい価値をもつから。
- ウ 千利休が茶碗のもつ美として欠けや漏れといった欠点に注目し、新しい価値として語ることで、受け手にその感動が伝わるから。
- エ 茶碗自体はただのモノだが、一流の作り手でもある茶人の千利休がその美や価値を語ることにより、受け手の側にも同じような価値が芽生えるから。
- オ ただのモノであった茶碗を、千利休がほめたことで、時代の権威である関白や帝も認めざるを得ない価値が生じるから。

問十 本文の内容の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 京都の貴族文化に対抗して成立した江戸の大衆たちによる消費文化は、歌舞伎や狂言など、大人と子供の境目を曖昧にすることで花開いた。
- イ 西洋では芸術の作り手であるアーティストが受け手をよく理解するのに対し、日本では芸術の受け手である客が作り手の文化を理解している。
- ウ 歌人による歌の情景を作る日本庭園を理解するには、作り手側の暗号を理解する受け手が不可欠で、江戸時代の粋の文化はそれらの受け手により成り立っている。
- エ 京都の貴族文化を経て江戸の文化として発展した消費文化が、現代ではオタク文化として作り手の知識を試しながら作られている。
- オ キセルや茶碗など、見る人によって価値が変わるモノに対して、その価値を理解し芸術的な美を発見するには売値の高さも重要となる。

(二) 次の文章は、安岡章太郎の小説「家族団欒図」の一節である。以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私の場合、父は停年^{注1}退職をしたわけではなかった。敗戦で職業軍人の地位を追われ生活の手段を失ったまま年とったのである。かんがえてみると、終戦以来どうやら私が自立してやって行けるようになるまでの十年間、どんなふうにも活きつないできたのか不思議でならない。乞食と泥棒とはしなかったようなものの、**A** その一步手前のところまでは何度も行った。戦後の混乱期に巻き込まれて私たちは苦しんだが、あのような混乱期でなければ出来るはずもないことをやったからこそ、きょうまで生きのびることが出来たともいえる。とにかく死にたくはない一心の無我夢中ですごした十年間だった。そしてトリトメのないどろどろの生活にどうやら恰好^{かっこう}がいつてきたころ、疲れはてた母親は廃人同様の姿で死んで行った。ちようど「戦後」はおわった」という声が、あちらこちらで聞かれはじめたころである。

たしかに、「戦後」は①いつとはなしに終っていた。コウモリ傘が八十五人に一本の割で配給されるだろうとか、東京の街には数十万の餓死者が出るだろうとかいった話は、いつの間にか伝説にすぎなくなり、あのころには夢としか想え^{おも}なかつたような事態が現実のことになってしまった。現に私自身、結婚し、父親になり、一戸の家をかまえているが、こうしたことは脊椎^{せきつい}カリエス^{注2}で身動きもならず膿^{うみ}と垢^{あか}みれになつて寝込んでいた当時の私には想像もおよばぬことだった。私は女房や子供から「パパ」とよばれ、芝生などあしらった庭先のペンキ塗りの物干し場に「純綿」の真っ白なエプロンだの、色とりどりのハンカチーフだのがa翻^かっているさまを、

B くすぐつたい憶^{おも}いもなしに眺^{なが}めている。

「パパ、戦争ちゆうの子供はお肉も玉子もなアんにも食べられなかったのにね」
母親の口真似でそんなことを云う子供に、

「そうだよ、だからミサ子ももつたいたいと思つたら、のこさずに全部おあがり」

などと妙に②芝居^{しげ}がかつたセリフでこたえて自分一人テレくさくおもうものの、子供の方では至極^{しごく}まともに受けとつてウナずきかえすのである。

③ そんな私のところへ、ある日突然「戦後」がやってきた。郷里のK県から父親が上京してきたのである。

もちろん、父は突然にやってきたわけではない。母の死後、そのあと片づけもおわり、身辺の整理がついたら、こちらへやってくるということにはなっていたのだ。しかし父が私たちといっしょに生活しはじめるとなると、やはりあらゆる意味で突然の変化をともなわないわけには行かなかった。第一に感じられたのは家が手狭^{てんぎや}になったことで、十二坪半^{注3}の公庫住宅は親子三人のくらしには格別小さすぎもしなかつたが、父が一人加わると急に足の踏み場もないほど狭苦しくなり、私は家の中で仕事がしにくくなった。家の問題は建増^{けんぞう}してもすると、それよりも困つたのは父がK県からつれてきた数羽^{かずわ}のニワトリを、どこへ置くかということだ。庭といつても軒下^{けんか}四尺五寸^{注4}ほど家のまわりに空地があるだけでは、ニワトリを棲^すまわせるための日当りと風通しの好い場所など見あたらぬ。しかたなく私の仕事している部屋の窓の下に金網をはってかうことにしたが、明け方からオンドリのトキをつくる声や、羽撃^{はばた}く音、それに風の吹きまわしで臭^{くさ}ってくる餌^えや糞^{ふん}の臭いで、たちまち私の三畳間の書齋^{しゆさい}全体がトリ小舎^{こや}に変わってしまったような気がしてきた。

終戦後の数年間、父はニワトリやアンゴラ兔^{注5}など小動物を無理な算段で手に入れてきては、その飼育に失敗し、家計をいよいよ窮乏^{きゆうぱん}させるといったことをくりかえしてきたのであるが、いまでもどこでさがしてくるのか棒切れや、トタン板、トヨ^{注6}の切れはしなど拾^{ひろ}いあつめてきては、急造^{きゅうぞう}のトリ小舎の前にかがみこみ、何やらしきりに小首^{こくび}をかしげてやっている。そんな父を見ると私は、忘れかかっていた「戦後」が亡霊^{むしやう}のように父のまわりにbタダヨい^{ただよい}はじめるのではない

かと思うのだ。

「どうしました、おとうさん」

「うん。餌受けさ」

父は簡単にそうこたえる。そんなものならそのへんの金物屋で、もつと体裁の良いものを売っているにちがいないのだが、父は太くて短い指先に不器用に針金を巻きつけたりしながら、

C 熱心に作業をつづける。

X

そんな標語が禿はげ上った赤黒い額のなかに滲しみこ

んでいるみたいだ。この調子だと、いまにまた魚屋からアラを買いこんで自家製の魚粉をつくるつもりかもしれない。私は父や母と暮らしたK海岸の家に一日じゅう魚のハラワタを煮つめる生臭いにおいの立ちこめていたことを憶い出した。夕暮れが近づくと井戸端からトントンとトリの餌にする菜っ葉をきざむ音が単調にひびいて、④そのたびに私は倦怠と空腹の入り混った奇妙なイラ立ちさをおぼえたものだ。

ことによると父は、私の生活能力をいまだにあやぶんでいるのだろうか。たしかに私の職業はあまり安定性がない。しかし、いくら不安定な稼業であろうとも、父の養鶏で助けてもらおうとは思わない。それもこんな狭い町なかの庭先で、

「生ミタテ生玉子アリマス」

と看板をかかげて売るほどたくさんのトリを飼われてはかなったものではない。いや、父にしてみればそんなことより、やはり何かせすにはいられないまま、終戦後の生活の習慣をまもりつづけているだけのことかもしれない。とにかく父は食事の時間のほかは、トリ小舎をのぞきこんだり、垣根の植え込みをいじくったり、部屋に閉じこもって電信柱ほどの直径の大きな材木を小刀で刻んで、おそろしく不細工なラジオの台だとか花瓶立てだとか称するものをつくったりしている。ただそうやっていてくれるぶんには、散らかしっぱなしの後片づけが面倒くさいと、女房がグチをこぼすくらいのことと、たいした支障もきたさなかつたが、それらの不細工な製品を

D あちこちへ並べたがるのにはcヘイコウウした。むろん、私の家には芸術的の価値ある装飾品など一つもないが、それでも電信柱の古材を削ったうえにニスなど塗りたくった怪しげなものを、そうでなくとも狭苦しい玄関の正面にドツカリと据えつけられたりすると、来客のあるたびにいちいち弁解しなくてはならないのは、煩わしいかぎりである。

私は、⑤まるで里子に出してあった大きな子供を家につれもどして育てているような気持で父親のすることを眺めていたが、いざとなると子供のように簡単には扱えないところもある。一度、同期の旧将校たちの集まりがあるとかで出かけたあと、

「これ、どうします」と女房が、いかにも厄介やっかいげにれいの玄関の装飾品を指さすので、

「いまのうちに物置にでもほうりこんどけ」としまわせた。

「だいじよぶかしら。あとで怒られない」

「大丈夫さ、親じはへんに頑固なところもあるかわり、たいていのことは至極アッサリあきらめちゃうタチなんだ。自分で玄関にそんなものを置いたことだって、忘れちまつてるかもしれない」

はたして、かえってきた父は玄関では何も云わず、すこし酒気をおびていたせいかな、そのまま奥の部屋にのべさせてあったd床の中にもぐりこんで寝てしまった。ところで何日かたつてのことだ。父はまたどこかへ出かけ、それから引きずるような靴音をたてて帰ってきた。

「ただいま」

出むかえた私に、父はそういうと不意に口もとにウス笑いをうかべて、

「気に入らんのか」と、**E** れいの置物の置いてあった靴箱の上の白い壁を指した。

「うん」

私は虚をつかれるおもいで口ごもった。すると父は無言でひたい越しにジロリと白い眼を向けると、うす笑いをうかべたまま顔を急に真っ赤にして、

「じゃ」とか何とか口早に云いながら、となりの部屋にひっこんだ。

たしかに父はアキラメのいい男だ。しかし、その怒ったためか恥じ入ったためかわからない真っ赤な顔に、云いようのない不満のあらわれていることもたしかだった。すると私もまた⑥すきんだ気持になり、心の中でつぶやいた。——誰が何と云おうと、この家の Y はオレなんだぞ。

奇妙なことに私はそのとき、あの置物を e テツカイしたのは自分にもその意志があつたにもかかわらず、結局は女房の指示にしたがったのではなかったかと、そんなことがしきりに心の底にわだかまってくるのを覚えていたのである。

注1 定年に同じ。

注2 結核菌により引き起こされる病の一つ。背骨に生じた病変のこと。

注3 土地・建物の面積を表す単位一坪は、約三・三平方メートル。

注4 一尺は、約三〇・三センチメートル。一寸は一尺の十分の一で、約三・〇三センチメートル。

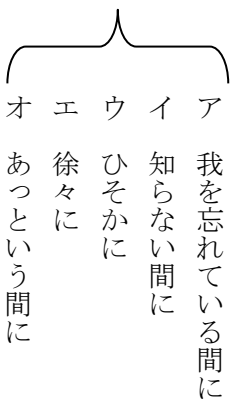
注5 トルコのアンカラ地方原産のウサギの一種。長毛種で、被毛は毛織物の素材として利用される。

注6 種(と)のこり。

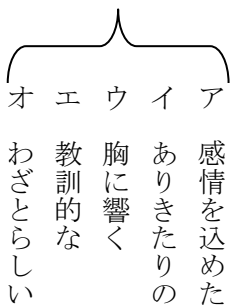
問一 二重傍線部 a、e について、漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に改め、楷書で正確に書きなさい。

問二 傍線部①「いつとはなしに」、②「芝居がかった」、⑥「すきんだ」について、本文中の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

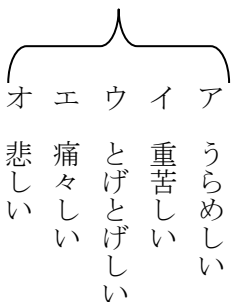
① いつとはなしに



② 芝居がかった



⑥ すきんだ



問三 空欄A、B、C、D、Eに入る最も適切なことばを次の中から各々一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア あくまでも
- イ いきなり
- ウ ほとんど
- エ 別段
- オ やたらと

問四 傍線部③「そんな私のところへ、ある日突然『戦後』がやってきた」とあるが、どういうことか。七十字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

問五 空欄Xに入る最も適切な表現を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア “忠君愛国” “産メヨ増ヤセヨ国ノタメ”
- イ “一網打尽” “己殺シテ国生カセ”
- ウ “乾坤一擲” “贅沢ハ敵ダ”
- エ “自給自足” “欲シガリマセン勝ツマデハ”
- オ “臥薪嘗胆” “足ラヌ足ラヌハ工夫が足ラヌ”

問六 傍線部④「そのたびに私は倦怠と空腹の入り混った奇妙なイラ立たしさをおぼえたものだ」とあるが、ここに表れた「私」の心情の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 戦後の苦しい中、夕暮れになり、私も空腹をおぼえたが、父はトリの餌の事にしか興味がなく、トリが家計を窮乏させていることにも無頓着で、自分や母という存在が父にとって意味のないものではないかと腹立たしく思っている。

イ 戦後の苦しい生活の中、トリの餌を刻む音は、家計を窮乏させている父がそれをどうすることもできずにいる現実を思わせ、その音を聞くたびに生活が成り立たない現状にうんざりした気持ちや腹立たしさを感じている。

ウ トリの餌を刻む音や魚の生臭い匂いは、戦後の苦しい生活の中、家計を窮乏させていく父が、それでも自分のやりたいことをやり抜く姿を思わせ、一方何もできずにいる自分に焦りや空しさを感じている。

エ 父がトリの餌にする菜っ葉を刻む音は、私には家計を窮乏させていく音にしか聞こえず、そのせいで私も母も食べる物も食べられず、怒りを感じるが、頑固で偏屈な父に何を言っても無駄だという諦めも感じている。

オ 戦後の苦しい生活の中、トリの餌を刻む音は、家計を窮乏させているとわかっているにもかかわらず飼ってしまったトリたちを養うしかないという父の苦悩を感じさせ、その音を聞くたびに生活が瓦解していくのではないかという恐ろしさや焦りを感じている。

問七 傍線部⑤「まるで里子に出してあった大きな子供を家につれもどして育てているような気持」とあるが、どのような気持ちか。その説明として、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 父のすることに困惑し、厄介さを感じているが、長い間離れて暮らしていた負い目もあり、父の意思を尊重しようという気持ち。

イ 父のすることが理解できず、戸惑うばかりだが、年老いた父の姿を見ると不憫になり、父のしたいようにさせようという気持ち。

ウ 父のすることに困ったり、煩わしさを感じたりしているが、多少のことは大目に見て、何も言わずに好きなようにさせようという気持ち。

エ 父のすることは、戦後の生活を思い出させるので、苛立たしさを感じるが、生活を助けるように父の思いを無駄にできないという気持ち。

オ 父のすることにうんざりしたり、腹を立てたりするが、文句を言って親子の間に波風を立てる方が面倒だという気持ち。

問八 空欄Yに入る最も適当なことを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 主権者
- イ 年長者
- ウ 住人
- エ 主役
- オ 父親

問九 父親の人物像の説明として、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 家族が迷惑していると知っても、自分の作った置物を勝手に飾り、取り除かれると数日経ってから怒り出す執念深い人物。
- イ 息子の世話になることになったが、できることは自分がやろうという思いが空回りして却って息子に迷惑をかけてしまう滑稽な人物。
- ウ 戦後の生活も新しい生活も関係なく、自分の好きなことや興味のあることをただひたすらし続ける愚直な人物。
- エ 戦後の生活をいつまでも頑なに引きずり続け、何かと家族を困らせ、現在の生活に馴染もうとしない自由奔放な人物。
- オ 戦後の混乱期を如才なく生き抜くことが出来ず、戦後が終わっても戦後の生活を引きずってしまいう器用な人物。

問十 本文の内容や表現の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「エプロン」や「ハンカチーフ」などの外来語を用い、「ニワトリ」や「ハラワタ」などの語を片仮名にすることで、戦後の生活を脱した新しい時代に生きる家族の様子を表現している。
- イ 父の同居により、生活習慣の異なる家族の間に軋轢が生まれ、父と女房の板挟みになって苦悩する「私」の思いを通して、三世代の同居問題を戦後の社会問題として描いている。
- ウ 父の同居とともにトリの「餌や糞の臭い」に見舞われ、それはかつて父と暮らしていたときの「魚のハラワタを煮つめる生臭いにおい」の記憶を思い起こさせるなど、嗅覚が効果的に用いられている。
- エ 戦後の生活から抜けられないでいる父との同居により、新しい生活を営んでいる家族が困惑する中、父の言動に煩わされる「私」の思いを通して、一つの家族の姿が描かれている。
- オ 戦後、職業軍人の地位を追われた父が戦後の混乱期も、その後の新しい時代もうまく生きることができずにいる様を描き、戦後世代の「私」が戦争の傷跡の深さを告発している。

(三) 次の文中の空欄にあてはまる最も適当な語句を選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

①何とかしてやりたいけれど、ない()は振れないんだ。

ア 賽さい イ 袖 ウ 旗 エ 棒

②悩み苦しむ親友に何もしてやれない自分の()を感じる。

ア おこがましき イ もどかしき ウ むつまじき エ ゆゆしき

③小さな女の子が()なひとみで私をじっと見つめた。

ア あけすけ イ おぎなり ウ つぶらな エ よこしま

④姉の結婚式に出席するために新しいスーツを()。

ア あつらえた イ いぶかった ウ つくろった エ とりなした

⑤「本日の午後三時に、社長に()ことになっているのですが」

ア お召しになる イ お目にかかる ウ 御覧になる エ 拝見する

⑥明日の準決勝では、上位四チームがしのぎを()ことになる。

ア きそう イ けずる ウ ふやす エ まわす

⑦「お前も、もう()のつく年頃だろう」と父は言った。

ア 見聞 イ 収拾 ウ 分別 エ 良識

⑧科学技術は()の発展を続けている。

ア 一朝一夕 イ 言語道断 ウ 千差万別 エ 日進月歩

⑨「早寝早起き」というのが私の()です。

ア アリバイ イ エビデンス ウ モットー エ リノベーション

⑩()にそんなことを言われても、すぐにお返事はできません。

ア 棚からぼた餅 イ 寝耳に水 ウ 虫の知らせ エ 藪から棒